

群馬大学広報誌

[グッデイ]

GU'DAY

IS NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION GUNMA UNIVERSITY'S MAGAZINE THAT PROVIDES RECENTNEWS

特集1 研究紹介－群大の知の最前線－
特集2 輝く群大生





群馬大学広報誌 [グッデイ]

GU'DAY VOL.16 2026

Spring

IS NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION GUNMA UNIVERSITY'S MAGAZINE THAT PROVIDES RECENT NEWS



Contents

- p.04 ● 研究紹介
- p.12 ● 輝く群大生
- p.14 ● 附属中学校音楽部
全日本合唱コンクールで金賞受賞
- p.15 ● イマドキ！キャンパスライフ
- p.16 ● 群馬大学最新ニュース
- p.18 ● ホームカミングデー2025開催報告
- p.19 ● 群馬大学基金

写真の説明

- ◆ 表紙の写真について
群馬県東毛地区の湖沼にて、青空に向かって越冬鳥が一斉に飛び立つ光景です。新たな環境へと羽ばたく春のイメージと重ねて撮影しました。
- ◆ 目次の写真について
森羅万象華やぐ季節、群馬県を流れる利根川の岸辺で出会った光景です。

Research Activities

歴史資料を読み取ることにより、空間的事象がいかに展開していたかを考察

～時間(歴史)と空間(地理)の両軸から人びとの暮らし・社会のあり方を研究する歴史地理学により、過去の出来事を具体的な場所と結びつけて復原し、明らかに～



共同教育学部 社会科教育講座

せきど あきこ 関戸 明子 教授

関戸先生は、旅行文化や観光の歴史に精通し、旅行日記や紀行文、案内書、絵図・鳥瞰図、絵はがき、広告宣伝など、旅行者や事業者が残した多様な資料を収集し、観光をめぐる事象の歴史的展開を明らかにしています。それらの取り組みの一つ「多数の草津温泉絵図から江戸時代後期以降の草津白根山の活動推移を解き明かした研究」についてお話を伺いました。

研究の概要について

草津白根山は、白根山(2,160m)、本白根山(2,171m)などの山々の総称です(図1)。この研究では、江戸時代後期から制作されてきた69点の草津温泉の鳥瞰図(温泉絵図)を手がかりに、約200年にわたる噴煙活動の様子を検討しました。観光案内として広く流通していた温泉絵図を収集し、そこに描かれた山々の様子を年代ごとに比べ、噴煙の有無を1つ1つ確認することで、過去の活動推移を解き明かしました(図2)。

その結果、文政年間(1818-30年)の鳥瞰図に、噴煙を上げる本白根山が描かれていることを確認しました。そこで、2018年の噴火以前には活動記録がないとされていた本白根山が、19世紀初めに噴火した可能性があることが分かりました。また、白根山は19世紀半ばの約30年間を除き、昭和初期ごろまでほぼ常に噴煙を上げていたことも明らかになりました(図3)。

この研究では、鳥瞰図が、文書や地質の記録だけでは分からない過去の火山活動を知るための資料になることを示しました。草津白根山のこれまでの活動を知ること

は、今後の安全な利用や防災を考えるためや、火山と人びとの暮らしの関係を見直すためにも重要です。

〈論文情報〉 Akihiko Terada and Akiko Sekido (2025) Reconstructing past volcanic plume activity of Kusatsu-Shirane volcano, Japan, using historical drawings of the Kusatsu spa area. *Bulletin of Volcanology*, Vol. 87, 104. DOI : 10.1007/s00445-025-01890-5

今回の研究で鳥瞰図に着目した理由とは。また鳥瞰図の可能性について

鳥瞰図は、場所の景観を視覚的に分かりやすく伝えてくれます。鳥瞰図には、広い空間における地誌的事実をできるだけ正確に伝えようとする工夫があり、地図が苦手な人でも直感的に理解しやすいという特徴があります。また、描き手の発想や工夫が生かされた豊かな表現も大きな魅力です。極端なデフォルメや大胆な構図が見られることもあります。

明治12年(1879)の草津の鳥瞰図には、湯畑を中心に15か所の共同浴場が描かれています(図4)。明治期の草津では、3週間を一つの単位として、療養のために多くの湯治客が

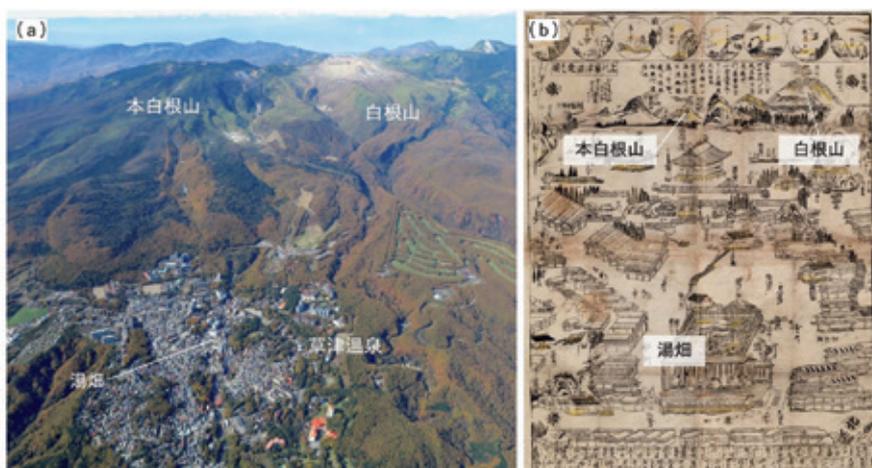


図1 : (a)草津白根火山。(b)鳥瞰図の例(群馬県立図書館所蔵)(Terada and Sekido (2025)を加筆・修正して作成)



図2：鳥瞰図に描かれた山々の描写
 白根山、本白根山、浅間山については、噴煙ありを○、
 噴煙なしを×で示す。
 所蔵：a・c-fは関戸、bは群馬県立図書館。
 (Terada and Sekido(2025)を加筆・修正して作成)

日々これらの浴場に通っていました。草津温泉が伝統的な湯治場から観光地へと変容していく過程を考察するときにも、鳥瞰図は有用な資料になっています。

今後も鳥瞰図の歴史的・文化的な価値に注目し、公的記録には残りにくい事象を読み取りながら、その時代の社会の様子を明らかにしていきます。さらに、自然現象の表現にも着目し、自然科学分野との協働も視野に入れています。これまで十分に知られてこなかった資料の探索を進めるとともに、当時の社会的背景を踏まえながら、図像に込められたメッセージを読み解くことを目指していきます。

先生が研究する上で大切にしていることなどについて教えてください。

研究においては史料批判を大切にしています。史料批判とは、歴史学において史料の信頼性を多角的に検討することを意味します。複数の史料を比較しながら、データを丁寧に扱うことを心がけて



取材の様子(史料を見ながら)

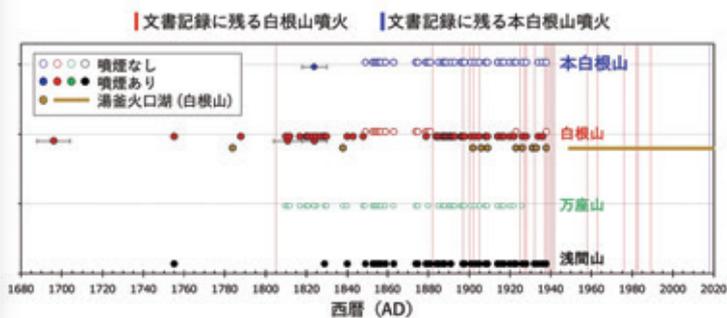


図3：鳥瞰図と歴史資料から復元した白根山と本白根山の噴煙活動推移
 万座山は非火山、浅間山は活動的の火山であり、鳥瞰図に頻繁に描かれた。(Terada and Sekido(2025)を加筆・修正して作成)

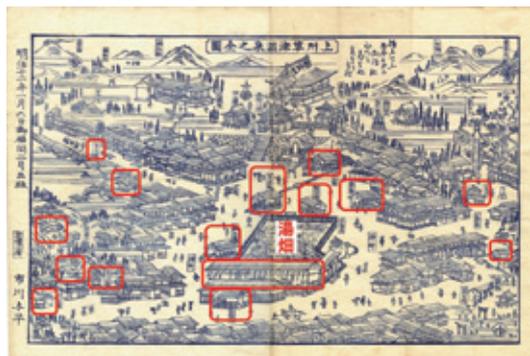


図4：鳥瞰図に描かれた共同浴場(1879年)
 赤枠が共同浴場 所蔵：関戸

います。草津白根山の噴煙活動の研究でも、歴史資料の作成時期、作成主体、作成目的といったことを踏まえて活用しています。

先生のような研究を目指している学生へメッセージをお願いします。

学生のみなさんには、幅広く文献を読み、批判的な視点をもってほしいです。研究の問いの独自性を意識したうえで、徹底的にデータを収集し、論理的に分析を進めることが重要です。卒業論文は、学生生活の学びの集大成と位置づけられるものです。みなさんには、研究に主体的に取り組んでほしいと思います。

このコーナーの取材を担当した学生広報大使



普段は見過ごしてしまう絵図も、視点を変えると歴史の手がかりになることが分かりました。昔の街や山の様子を目で追いながら学べるのが楽しく、鳥瞰図の広い景色を分かりやすく伝える工夫や、描き手の自由な表現の面白さも感じました。今後は、観光案内パンフレットなどもじっくり見てみたいです。

共同教育学部 英語専攻1年 大内 乃愛

Research Activities



情報学部 情報学科

おく ひろまさ
奥 寛雅 教授

ドローンが吊り下げた大型スクリーンへの 高精細映像投影を実現

～シーンの状況に応じて動的に撮像や投影を制御する

“次世代のメディアテクノロジーの創出”を目指して！～

昨年新聞などのメディアにも取り上げられた、奥寛雅教授の研究室の取り組みの一つ「高精細な画像を空中に映し出す空中ディスプレイ技術：HoverCanvas(ホバーキャンバス)の研究」についてお話を伺いました。

ホバーキャンバス開発の概要について

ホバーキャンバスは、空中にスクリーンのような面を作り、そこに映像を映し出すことで、地上ではなく空中に大きな映像を表示できる新しいディスプレイ技術です。100メートルほど離れた場所から、空中を飛び回るスクリーンの動きを自動で追尾し、アニメーションなどを映し出すことに成功しました。都市部の広告やイベント、観光地での演出、さらに災害時の避難誘導など、さまざまな場面で新しい情報提示の方法を実現しようとしている研究です。(参照：図1～3)

ホバーキャンバスという名前の由来。またこのアイデアを思いついたきっかけについて

ホバーキャンバスとは、「浮かぶ+絵を描くキャンバス」を組み合わせた造語で、技術を一般に分かりやすく伝え、親しみを持ってもらうため付けた名前です。

長年の研究過程で、何か動くものに映像を投影することができないかを考えていました。映像を出すときに映すモノが小さいと何が映っているのかもわからず、人間の目も追いつかない。もし投影されるものが大きければ、多くの人にも見られてニーズも上がるのではないかと考え、空中に出せる映像を考えました。本研究の特徴として、数多くのドローンを使用するドローンショーと比較し、単体のドローンが吊り下げたスクリーンに地上から映像投影することで、比較的lowコストで空中ディスプレイを実現することが挙げられます。

今後ホバーキャンバスがどのようなことに活用されていくのか。

人員不足解消と作業員の安全確保を目的として、高速道路などの危険な場所や事故や工事の際の車両誘導。また災害時の避難誘導にも有効だろうと考えています。花火大会や観光地でのライトアップなど、集客イベントでの活用も想定されます。昼間は太陽光の影響で投影が難しいため、夜間のイベントとの相性が非常に良く、都市部における空中広告などさまざまなシーンで活用可能です。

先生が手掛けている他の研究内容や事例について

高速動的撮影技術をはじめ、食べられる光学素子：レンズや光ファイバーを食品素材で作る研究で、パンケーキの位置を認識して投影する「ホバーキャンバスの食べ物版」のような研究も進めています。

直近では、外出が困難な医療的ケア児のために、病院内で視野の広い没入感のある映像体験を提供するプロジェクトを開催し、投影技術を利用した小児看護へ応用した取り組みも行っています。

さまざまな環境に対応して、高速かつ適応的に映像の計測や投影を行う技術を研究・開発しています。



図1：HoverCanvasの想定される応用



図2：開発した投影システムの写真

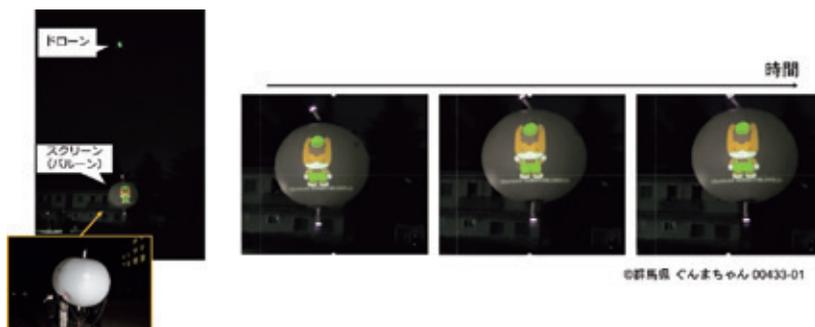
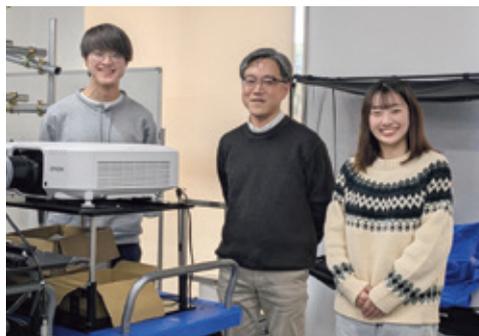


図3：飛翔する直径2.3mの大型スクリーンにキャラクターのアニメーションを表示した結果。ドローンとスクリーン全体の写真(左)と、投影されたアニメーションの様子(右)

先生のような研究を目指している学生へメッセージをお願いします。

「研究対象が目の前で見て動くモノが面白い。」ももとは物理を専攻していましたが、コンピューターもプログラミングも好きで、ロボットのように目の前で見て動くモノに興味を持ち始めました。結果、画像処理などの研究に夢中になり、気が付けば現在の情報学部にも所属していました。自分がやりたいことのために、必要なことを幅広く学ぶ姿勢が大事と考えています。まずは色々なことに挑戦してみてその中で「これ面白い」「これは得意かも」というものを見つけて欲しいと思います。

非常に予測が難しい時代だと思うので、やりたいことに向け全部勉強するくらいの気持ちでいた方が、結果的に良いのではないかと考えます。自身の成長や興味対象の変化などに柔軟に対応し、興味の先に待っている分野や業界に行けることが幸せだと思えます。



奥先生の研究室にて

奥先生の研究室は、動的な映像制御や、新たな画像利用の研究を進める気概のある学生の熱意があふれていました。奥研究室の研究内容などについては、以下をご覧ください。

奥研究室ホームページ <https://www.okulab.org/>



奥研究室メンバーで、ホバーキャンパスの研究を担当した山本真平さん(大学院情報学研究科 修士1年)にもインタビュー

大学院情報学研究科 修士1年
山本 真平さん



今回の研究で苦労した点

100m離れた位置にあるスクリーンの場所を常に探し続け、投影位置を捉え続ける技術の確立が非常に困難でした。ドローン自体も風の影響を受け、またスクリーンも外部の影響を受け揺れてしまうため、投影を安定させることに苦労しました。荒牧キャンパス内のラグビー場などを使用し、タイミングを見て投影試験を行いました。

研究室を目指す学生さんにメッセージをお願いします。

奥先生と同様に、眼に見えるものが形になることに面白さを感じています。自分の成果を人に見てもらい、評価を直接受けられることもやりがいにつながっています。日常生活ではあまり馴染みのない、ドローンという機材そのものにも惹かれました。珍しいものを使って面白いことがしたいという好奇心が研究に取り組む原動力となっています。興味を持ったことに対して素直にやるのが重要だと感じています。

このコーナーの取材を担当した学生広報大使



奥先生のお話を伺い、最先端の空中投影技術がこれほど身近で研究されていることに驚きました。交通誘導やエンターテインメントなど、この技術が社会に溶け込んでいる未来の景色がいつか見られるかもしれないと思うと非常に楽しみです！この研究に触れたことは、私にとって貴重で光栄な経験となりました。ありがとうございました！！

情報学部 情報学科3年 佐藤 琴美

Research Activities

共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT): 災害など危機的状況でのヒト・モノ・ココロが つながる健康医療共創拠点

～災害後も誰一人取り残さず、中長期にわたって健康で
いられる社会の実現を目指して～



保健学研究科長

さいとう たかゆき
齋藤 貴之 教授

血液疾患やDNA修復に関する研究や、医療・福祉分野の多職種連携、国際的な交流など多様な研究に取り組む齋藤先生に、現在取り組んでいる本プログラムについてお話を伺いました。

実は直接的被害より二次被害が多い!?

日本では地震や豪雨といった災害が毎年のように発生しています。実は災害時には発災時の直接的な怪我よりも、様々な合併症などの二次被害によって亡くなる方が多いことが知られています。高齢の方や持病のある方など、災害要支援者は被害を受けやすく、十分な支援が行き届いていないことが大きな課題になっています。

このプロジェクトでは災害時でも誰一人取り残さず、二次的な健康被害を防ぎ、長く健康でいられる社会の実現を目指しています。安心して過ごせる避難環境の改善や、災害時も切れ目なく健康を支援できる仕組み作りに取り組んでいます。また、平時から地域の皆さんにセルフレジリエンスを身に付けてもらう、つまり災害時に自分や周囲を守り、自分で立ち直る行動がとれるようになってもらうこともターゲットの一つです。産業、大学、行政が協力して新しい仕組みを作り、社会に実装することが「共創の場」の目的です。

目指すのは災害リスクコミュニケーションと 教育体制の構築

本ビジョンのもと、順天堂大学を中心とした複数の大学で、5つの研究課題に取り組んでいます。群馬大学では、医学部保健学科と理工学部の教員が、主に課題5「災害リスクコミュニケーション及び教育体制の構築」に取り組んでいます。

主な取り組みの一つが、太田市をはじめとした自治体と連

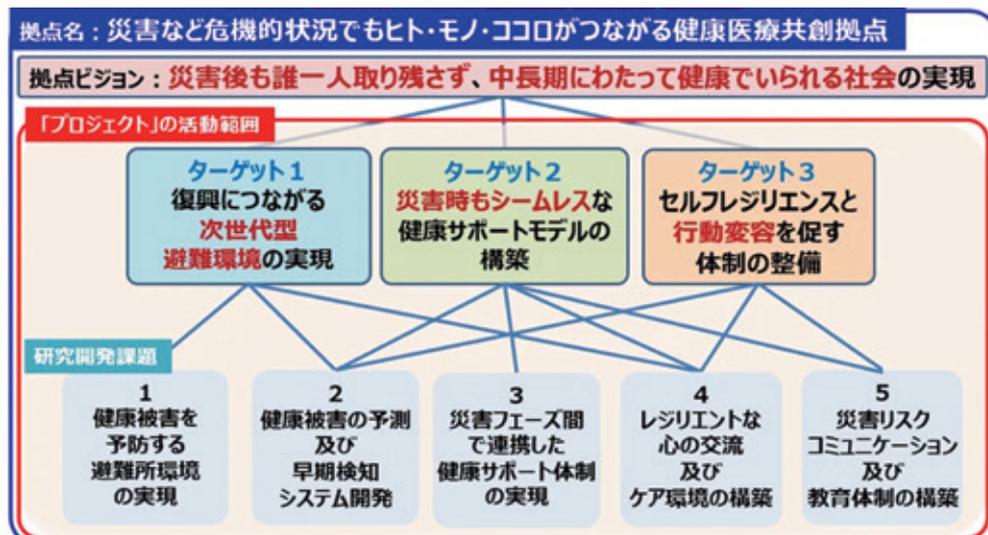
携した「防災×健康×IT×グローバル」のモデル事業です。市の全ての小学校に LoRaWAN という通信機器（詳細：p.10）を設置し、平時には熱中症アラートを関係者に自動送信し、災害時には避難所の状況把握や物資配分などの支援に利用します。今後は既存の健康増進事業や地域保健事業に防災の視点を取り入れ、日頃から主に高齢者や妊産婦、障害や病気を持つ人などを対象に、防災を意識した健康教育を実施したいと考えています。

もう一つは、群馬大学の WHO 協力センター「多職種連携教育研究研修センター」と「多職種人材育成のための医療安全教育センター」の知見を活かした国際的な取り組みです。災害時における多職種人材の医療安全教育について WHO と意見交換し、防災プロモーションを海外へと拡大しています。2025年には、災害時の多職種連携教育に関する国際シンポジウムを開催しました。

これらの取組を通して、防災と健康を一体的に進める防災ヘルスプロモーションを推進しています。



前橋市住民や保健師と災害等について意見交換する様子



共創拠点のビジョン

このプロジェクトに参加した動機を教えてください。

私たちのミッションは、チームワーク、つまりいろんな職種を超えて協働するということです。大学、行政、住民、企業の4者が連携し、新しい価値を生み出す「共創の場」は、この考えにぴったりだと思いました。また、私はウェルビーイングの実現を目指しています。心と体を良くするだけでなく、未来への不安を軽減させることが重要だと考えています。災害は未来への不確定要素という面で大きな不安につながるので、防災を行うことが未来への不安の軽減、ウェルビーイングへとつながると思います。私が一人で進めるよりも、チームで課題解決に取り組むプロジェクトが好きであることも、参加の動機になっています。



太田市と共創の場プロジェクト推進で合意

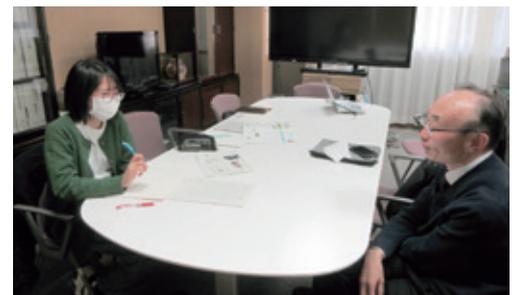
若い世代にエールをお願いします。

若い人には、ぜひ夢を持ってほしいと思います。ただ、正直に言うと、私自身が学生の頃はそこまで深く考えていませんでした。けれど、就職や留学を考える時期になって、「自分は何を大切に、どんな役割を担いたいのか」を意識するようになりました。

そんな時こそ、自分の気持ちに素直になって、一步前に踏み出すことが大切だと思います。目標が決まると、不思議といろいろなことを継続できるようになります。

目標に向かう途中では、二つの道が見えて「どちらがいいのだろう」と迷うことがあります。でも、どちらを選んでも大丈夫です。選んだ先で、自分の居場所はつくっていけます。大切なのは、自分が納得して決めること。親や友達、お金といった外側の理由だけで決めるのではなく、自分で選び、その道でとことんプロになっていけばいいのです。

まずは自分を信じて、一步踏み出してみてください！



取材の様子

このコーナーの取材を担当した
学生広報大使



今回の取材を通して、災害時における対策について理解することの重要性を実感しました。看護学専攻の授業では、ヘルスプロモーションや災害危機管理について学習するので、授業で学んだ内容が実際の災害時にどのように活かされるのかを具体的に知ることができ、大変興味深く感じました。ありがとうございました！

医学部保健学科 看護学専攻3年 関口 知香

Research Activities

超低電力・超長距離ネットワーク 「LoRaWAN(ローラワン)」を活用した データ計測デバイスを開発

～イノシシ対策から被災地支援まで、技術で地域に寄り添う～



大学院理工学府 材料科学プログラム

にしだ しんいち
西田 進一 助教

LoRaWANは、長距離通信と低消費電力を両立した無線通信技術であり、電池駆動で長期間の運用が可能なことから、近年IoT分野で注目を集めています。このLoRaWANを活用し、地方自治体が直面する様々な課題を技術によって解決する西田先生の実践的な研究についてお話を伺いました。

LoRaWANとはどういうものですか？

LoRaWANとは、Long Range Wide Area Network(長距離広域ネットワーク)の略称で、小さなデータ量ではありますが、数km以上先まで通信できることが特徴です。通信ネットワークを構築する費用が約10万円であり、従来の通信手段と比べて大幅に導入コストを抑えられます。ヨーロッパやアメリカを中心に世界的に活用が進んでいますが、日本ではまだあまり広く知られていません。

LoRaWANの研究に取り組もうと思ったきっかけは？

きっかけとなったのは、群馬県太田市内で深刻化していたイノシシによる被害でした。猟師が設置する箱罠は頻繁な見回りが必要で、大きな負担となっていました。イノシシが罠にかかった瞬間にメールか何かで通知が来る仕組みを作れないかという相談を受けたのですが、山間部ではWi-Fi環境が整っておらず、4GやLTE通信はコストや電源確保の面で課題がありました。そこで、安価で低消費電力なLoRaWANに着目し、捕獲を自動で通知する仕組みの実証実験を開始しました。

その後、太田市では総務省の補助金を活用し、市内約20か所にアンテナを設置しました。これにより、市域のほぼ全体でLoRaWANが利用できる通信環境が整備されました。

この通信基盤は獣害対策にとどまらず、教育現場にも活用されています。小中学校では、教員が手作業で行っていた暑さ指数(WBGT)の計測を自動化し、基準値を超えるとメールで通知する熱中症対策システムの実証が行われました。アンケートでは、多くの教員が負担軽減を実感し、暑さの予測が立てやすくなった点も高く評価されています。

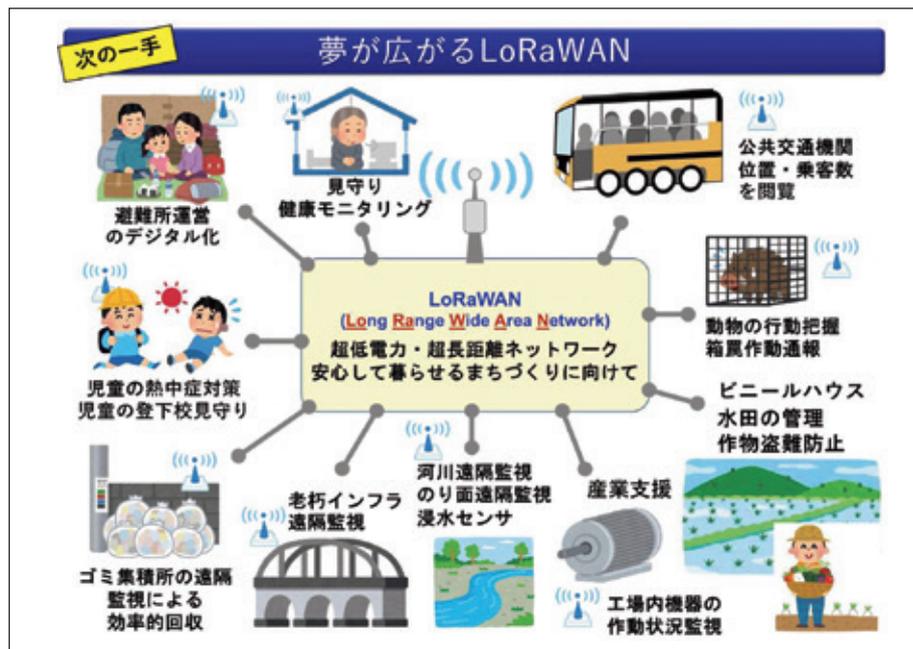
輪島市の仮設住宅でも活用

5大学連携で取り組む「共創の場形成支援プログラム」(詳細:p.8)の一環として、2025年12月に輪島市全域の仮設住宅の集会所を訪問し、LoRaWANのゲートウェイと二酸化炭素濃度センサを設置しました。二酸化炭素濃度、つまり空気の汚れ具合の数値データが保健師さんや県の福祉課に送られることで、換気目安となり、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの予防に役立ちます。

今後は、避難所のプライバシーを守りつつ、個人用テントに人感センサを取り付けて、外出状況を把握する仕組みを構想しています。能登地震直後、体育館が避難所となった際に、個人用テントに何日も引きこもってしまう方がいたことが大きな問題となっていたためです。輪島市に限らず、今後発生し得る大規模災害の場面でも、被災者の健康維持に役立てたいと考えています。

今後、この研究をどのように発展させていきたいとお考えですか。

LoRaWAN そのものを目的に研究しているというよりも、課題解決の手段の一つと捉えています。ありとあらゆることがLoRaWANでできるわけではありませんが、これまでの経験上、地方自治体が抱える課題の5割はLoRaWANで解決できる可能性があると考えています。自治体の課題解決の



いろいろな用途に活用できるLoRaWAN。活用シーンに合わせて専用デバイスを開発している。

ノウハウを全国に広げ、日本のどこでも LoRaWAN を活用できる環境を整えていきたいと思っています。

この分野に興味を持っている学生へメッセージをお願いします。

専門や分野に関わらず、幅広く視野を持ってもらいたいと思います。自分の専門が化学だから化学だけやっていればいいという世の中ではなくなってきました。そもそも私の研究室は金属加工の研究室であって、LoRaWAN の研究室ではありません(笑)しかし、IT 技術に興味を持っていたことが今の成果に繋がりました。

研究において私が大事にしているのは、「辿り着く」という姿勢です。辿ってどうにかしてゴールに着くことがあるかもしれない。でも実際には辿り着けないことの方が多い。だから研究は面白いのだと思います。いきなりゴールに着くなんてことはありません。全てが長い積み重ねの先にあるものだと思います。



輪島市内小学校の体育館の避難所。テント利用者(主に高齢者)が中にあるかいないかを把握したい、万が一の時すぐに救助したいといった輪島市職員のニーズに応え、人感センサなどの適用を検討中。

金属加工を専門としながら、IT 技術を用いて社会課題解決に取り組む西田研究室。専門に固執せず「頭と手を使って一生懸命取り組む」姿勢を大切にしながら、技術の力で地域に寄り添い、太田市から全国へと新たな可能性を広げています。



取材の様子。西田研究室の学生の皆さんにもお話を伺いました。

このコーナーの取材を担当した学生広報大使



今回の取材では、自分の専門とは異なる分野の取り組みや考え方に触れることができ、大変刺激を受けました。準備や工夫の背景を直接伺えたことで、物事を多角的に見る大切さを実感しました。この経験を今後の学びや活動にも生かしていきたいと思っています。

理工学部電子・機械類2年 **松村 光麒**

輝く群大生



#01

キャンパスのある「桐生市」を盛り上げたい！

桐生市と共に、「学生×桐生つながるプロジェクト」を行い、桐生市の魅力の創出にも貢献
理工学部の学生が立ち上げた学生団体「Playlist」を紹介！

Playlistは、理工学部のキャンパスがある「桐生市を盛り上げる」という目的のもと、桐生市のイベントのお手伝いや、桐生市の魅力をSNSにて発信している学生団体です。団体名には、音楽を集めるように桐生の魅力を集めて紹介していきたいという思いが込められています。現在、理工学部2年生から大学院理工学府2年生までの約30名で活動しています。代表を務める鳥海真歩さん（理工学部4年）に活動内容や桐生に対する溢れる想いを伺いました。

どうしてこのPlaylistという団体が立ち上がったのか。

Playlistは2024年に理工学部学園祭（群桐祭）の実行委員で立ち上げ、そこに新たなメンバーを加え活動しています。2024年群桐祭のテーマは「理幸（リサーチ）」ということで群馬大学・桐生市の魅力をリサーチして発信するというものでした。地元の織物屋さんから横断幕の布をいただいたり、御協賛いただいたお店の情報をまとめ、大きな魅力発信MAPを作成したりしました。活動を通じて、「桐生市の方とっと深く関わりたい。もっと桐生市の魅力を見つけて発信していきたい！」と思うようになり団体を立ち上げました。

どのような活動をしているのか。

現在は、桐生タイムスさんの地域情報誌のネット記事「タウンわたらせ」に、メンバーそれぞれが感じる桐生の魅力を伝える記事を、定期的に掲載していただいております。

また「桐生市の学生×桐生つながるプロジェクト」にて街歩きを行ったり、七夕まつりに参加したり、行政とも積極的に協力しております。

その他の活動としては、桐生市のtsukurunKIRYUにて3Dの作品作りのイベントを行ったり、桐生市内の日本遺産のスタンプラリーを行いました。2025年

度は、桐生市内で行われた東京藝術大学さんの作品作りをお手伝いしました。こちらのイベントでは、Playlistメンバーが撮影した写真が桐生市の広報誌の表紙に使用されるなど、貴重な経験ができました。さらに地域のラジオマルシェのお手伝いをしたり、民泊の取材を行ったり、活動は多岐にわたっています。活動の様子は、SNSに掲載しておりますのでぜひご覧ください！

活動を通じて

Playlistでは「桐生市を盛り上げる」ため大小問わず様々な活動を行っております。活動はメンバー全員で行うこともあれば、数名のメンバーで行うこともあります。そのため自分の強みを生かして得意な分野で活躍することができる団体です。桐生市の魅力はたくさんあり一言では語れないですが、桐生市での学生生活はととても魅力的だと感じます。それぞれが感じる桐生の魅力も様々です。

立ち上げ間もない団体ということもあり活動は手探りで行うことも多いですが、メンバー1人ひとりの意見をしっかりと反映して活動できる団体です。行政との関わりも多く大学内だけでは経験できない貴重な経験ができることも強みです。

少しでも御興味がある学生のみなさん、あなたが思う桐生の魅力を一緒に発信し、桐生を盛り上げていきましょう！



FM 桐生収録ブース



Playlist メンバー記念撮影

学生団体 Playlist

Instagram :
https://www.instagram.com/kiryu_charm_playlist/?hl=ja



#02

学生広報大使が運営するYouTubeチャンネル「群大生のすこぶるおっきりこみなチャンネル」とは？



～2025年に発足した学生主体の「群馬大学の魅力を伝える」新しいYouTubeチャンネルです。この度、チャンネルを立ち上げた中心メンバーにお話を伺いました～

どうしてこのチャンネルを立ち上げたのか。

群大生のリアルな学生生活を知ってもらうことで、群馬大学をもっと身近に感じてほしいと思ったからです。

タイトル名の「群大生のすこぶるおっきりこみな時間」は、「切り込んだ話をする」と、群馬名物「おっきりこみ」がかけ合わさって生まれました。

どのような活動をしているのか。

現在は主にInstagramで質問コーナーやVlogの動画を投稿しています。

メンバーは現在、4年生2名、3年生3名、2年生2名です。学年を超えて和気あいあいと活動しています。



おっきりこみ動画の撮影の様子

企画から編集まで全ておっきりこみメンバーが行い、毎週投稿を頑張っています。

現在、群馬県の観光Vlogを企画進行中です。なんといても我々は「群馬」の大学生。キャンパスを超えて、県内あちこちの魅力をお届けするべく奮闘中です！

このチャンネルを通じて伝えたいこと。

私たちが伝えたいのは、「大学生は楽しい」ということ。さらに言えば、「群馬大学にしかない楽しさがある」ということです。

この大学でたくさんの人に出会い、勉強に、サークルに、本当に数えきれないほどの「楽しい」を見つけてきました。

そんな我々だからこそ、群大の魅力を多くの受験生に伝えたいのです。

これからも群大生をより身近に、よりリアルに感じていただく投稿をお届けします。「群大生のすこぶるおっきりこみなチャンネル」を是非チェックください！

群大生のすこぶるおっきりこみなチャンネル

Instagram : https://www.instagram.com/okkkkkkkrk_3/?hl=ja



#03

医学部剣道部 秋季関東医歯薬獣医科大会3位に輝く！

こんにちは！群馬大学医学部剣道部です。このたび秋季関東医歯薬獣医科大会で28校中3位の成績を収めました！来年度は悲願の東医体（東日本医科学生総合体育大会）優勝を目指して日々稽古に励んでいます！

私たちは毎週火・木・土曜日に昭和キャンパスの武道場で剣道をしています。学生主体のアットホームな雰囲気、初心者から経験者まで楽しく活動しています！上下関係ガチガチ…、顧問の先生の厳しい指導…なんてこともありません。初心者も経験者も途中入部も大歓迎！最近では他大学の学生さんも稽古に参加してくれていて、ますます賑やかでパワフルな部活になってきました。



秋季関東医歯薬獣医科大会で3位！

楽しくしつつ稽古もしっかりします！練習では体力づくりや技術のレベルアップはもちろん、試合形式のメニューも盛りだくさんです。真剣にやるところはしっかり集

中しつつ、稽古後はみんなで笑顔で振り返る、そんな「頑張る×楽しい」のいいところ取りをしている部活です。



東医体後、部員で旅行に行きました。

「剣道強くなりたい！」という人はもちろん、「運動は苦手だけど雰囲気は気になる…」という人も、「大学から新しいこと始めてみたい！」という人も、みなさん安心して遊びに来てください！

稽古やイベントも含めて、部活そのものが大学生活の楽しみになること間違いなし！

少しでも「いいかも！」と思ったあなた、まずは気軽に見学へ。日々の活動はインスタとホームページで発信しています！

ぜひご覧ください。

群馬大学医学部剣道部

Instagram→[gunmakendom](#)
X→[@gundaikendo](#)
ホームページ→www.gundaiigakukendo.com



附属中学校紹介

共同教育学部
附属中学校音楽部が、
全日本合唱コンクール
で金賞受賞！



関東大会金賞で全国大会出場を決めた音楽部

共同教育学部附属中学校音楽部が、2025年10月26日（日）に行われた全日本合唱コンクール全国大会（富山県富山市）中学生部門混声合唱の部で、金賞を受賞しました。本校の金賞受賞は18年ぶりで、全国の強豪校が集まる中、本校生徒の伸び伸びとした歌声を披露することができました。

interview

音楽部主任※ 井上夏菜子



この度、全日本合唱コンクール中学生部門混声合唱の部にて、悲願の金賞を受賞いたしました。私たちの想いが詰まった演奏をたくさんの方に評価していただき、嬉しい気持ちでいっぱいです。

今年度は音楽部にとってさまざまな変化があり、部活動をどのように進めていくか悩むこともありました。その都度仲間と協力して乗り越えてきました。そんな大好きな

メンバーと一緒に、全国大会という大きな舞台で演奏できたことを誇りに思います。

このような素敵な経験ができたのも、大学の先生方や保護者のみなさまなど、周囲の方々のご協力があったからこそです。

これからは新しい代が中心となった活動が始まりますが、感謝の気持ちを忘れずに、楽しく活動してっていきます。

※主任は部長に該当

音楽部顧問 羽鳥 文仁

今年の附属中は「命の讃歌」という曲を演奏いたしました。この曲には、「あきらめずに生き抜くことの力強さ」や「人を愛し、愛されることの尊さ」というテーマが込められています。

全日本合唱コンクールの舞台では、音楽部 65 名の中学生が、これまでの人生の中で感じてきた“生きること”“愛すること”への等身大の想いを込めた、最高の演奏をすることができました。

関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。



全国大会金賞受賞で喜ぶ笑顔の代表生徒

イマドキ!キャンパスライフ

～群大生に聞いてみた～

群馬大学生 42 名に、勉強や普段の生活についてアンケートを実施!
群大生のリアルな日常を覗いてみましょう。

通学手段：やっぱり車が最強

群馬が好きで憧れて群大にしました。車を買ってイニシャルDしたいを目標に勉強しました。ちゃんとサーキット走ってます。(理工学部2年)



自動車免許保有率は **88%!**
通学に半数近くが自家用車を利用。



1年生の春～夏に免許を取得する人が多め。やっぱり群馬は車社会!

行動範囲を広げたくて車通学にしました。授業後に県立図書館まで行ったりお昼に外食したり出来るので便利です。(情報学部4年)



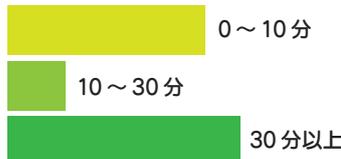
※複数回答可

通学時間：徒歩圏内 vs 遠距離の戦い

車で1時間かかる人が家を出る時に、私が起きるイメージ。一人暮らしの特権だと思う。その代わり遅れた時の言い訳は思いつかない。(理工学府博士前期1年)



※理工学府…
理工学部の大学院課程



通勤や事故渋滞で1時間半ほどかかることも。授業の2時間前に家を出ていました。(情報学部4年)



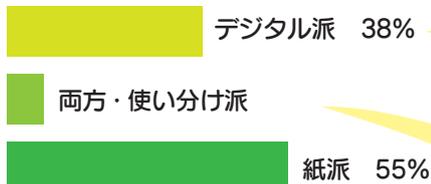
始発電車を乗り継ぎ、片道2時間以上かける猛者も!



ノート事情：デジタル派 vs 紙派はほぼ拮抗

紙派

・1年次にPCでノートを取っていたが、全く覚えられなかった。(理工学部4年)
・iPadを持っている人が光って見えました。(理工学府博士前期1年)



通学で電車や歩きの距離が長い人は軽いパソコンがおすすめという切実な声も…

デジタル派

iPadは必需品。レジュメにさっと書き込んで復習できる(医学部4年)

両方・使い分け派

資料が多く、書き込むタイプの授業はデジタルで行い、計算などが多い時は紙を使用していました。(理工学部4年)



まとめ

群大は「人生の教習所」説

7割が「テストは大変」と答えつつも、図書館で課題に全力投球。その一方で、8割以上がサークルやバイトで人生経験も積んでいます。勉強へ遊びへハンドルを切りながら、群大という教習所を卒業する時、人生を乗り越え準備は万端です。



2025.1 ▶▶▶▶▶ 2025.12

NEWS

群馬大学最新ニュース

▶2025.1/17

群馬大学発の土壌改良材を使って稲姫ファーム（群馬県沼田市）で生産されたお米「ぐっどまい」が、明治20年創業の老舗旅館草津温泉「草津館」で宿泊客に提供されると共に、お土産品として売店で販売されることになりました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/g63349/2024%e5%b9%b4%e5%ba%a6-%e7%ac%ac5%e5%9b%9e-%e8%a8%98%e8%80%85%e4%bc%9a%e8%a6%8b>



▶2025.3/24

こんにゃく由来の天然マンノースに関する技術開発「マンノース入りこんにゃくゼリー」お披露目を行いました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/g63349/2024%e5%b9%b4%e5%ba%a6-%e7%ac%ac6%e5%9b%9e-%e8%a8%98%e8%80%85%e4%bc%9a%e8%a6%8b>



▶2025.4/4

群馬大学理工学部の炭素繊維研究資料が「化学遺産」に認定されました。（第16回）

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/196764>



▶2025.4/11

減CO₂（げんこつ）ブロックが大阪・関西万博ドイツ館のテラスやアプローチに設置されました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/g63349/2025%e5%b9%b4%e5%ba%a6-%e7%ac%ac1%e5%9b%9e-%e8%a8%98%e8%80%85%e4%bc%9a%e8%a6%8b>



減CO₂（げんこつ）ブロック

▶2025.5/1

群大生が受け継ぐ天明3年の浅間山大噴火と復興支援

大学院保健学研究科看護学講座の内田陽子教授らは、同学の「地域貢献事業」の一つとして、令和6年の夏から学部生や院生と共に吾妻郡嬭恋村と連携して、天明3（1783）年の浅間山噴火の大被害と地域の復興支援の教訓を語り継ぐ「次世代の語り部」の活動に取り組んでいます。

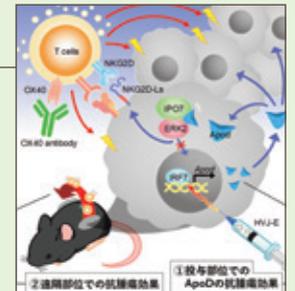
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/198976>



▶2025.6/20

アポリボタンパク質による抗腫瘍効果機序の解明—抗腫瘍免疫誘導法開発の基盤となる発見—

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/205495>



アポリボタンパク質による抗腫瘍効果機序の解明

▶2025.7/4

「企業人事に聞いた『卒業生が活躍している大学』調査」において、「地域の活性化に貢献する大学ランキング」で全国第1位となりました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/206579>



▶2025.7/18

食健康科学研究科キックオフシンポジウムを開催致しました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/207586>



▶2025.7/18

群馬大学生寮と荒牧キャンパスを結ぶ新たな乗り捨てカーシェアを開始しました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/208059>



▶2025.7/25

群馬大学が開発した土壌改良材を使用して吉岡町で生産された美味しいお米を使用した「日本酒 緒結」の販売を開始しました。

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/208806>



日本酒緒結販売

▶2025.7/29

群馬大学がネーミングライツ事業を初めて実施 ネーミングライツ・パートナーを募集へ
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/208806>



感謝状贈呈式

▶2025.9/1

共同教育学部理科専攻の学生5名に前橋警察署から感謝状が贈呈されました。
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/210199>



▶2025.9/4

大学院機能強化へ 新たに3つの博士課程設置
～情報学研究科、パブリックヘルス学環、医理エリギュラトリーサイエンス学環～
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/210491>



▶2025.10/7

群馬大学食健康科学教育研究センターと有限会社浅間高原麦酒との産官学金の連携でのマッチングにより販売した「こんにやくビール」のリニューアル販売（第3弾の販売開始）しました。
<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/g63349/2025kaiken3>



こんにやくビールリニューアル販売

▶2025.10/30

レスリングU23世界選手権において、大学院食健康科学研究科1年の元木咲良さんが、パリ五輪・世界選手権に続き金メダルを獲得し、世界のレスリング史上3人目となる「ゴールデングランドスラム」を達成しました。
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/213554>



▶2025.11/10

特別展示「群馬県古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展 Part10 Final ～群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を識る～」を開催しました。
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/214243>



▶2025.11/10

昭和町から昭和基地へ～第67次南極地域観測隊に群馬大学の研究員が参加決定～
生体調節研究所細胞構造分野(群馬県前橋市昭和町)の杉浦健太研究員が、南極地域の生物相と生態調査のため、第67次南極地域観測隊に隊員として参加することが決定しました。
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/214251>



ぐんまのうしんくん

▶2025.11/17

医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター公式キャラクター「ぐんまのうしん君」、病院ゆるきやら総選挙2025で3位入賞
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/214581>



▶2025.12/3

群馬大学とクイーンズランド大学（オーストラリア）の共同研究
2型糖尿病のリスクが高い女性の人種・民族が明らかになりました。今回、その共同研究の成果が、糖尿病に関する国際的トップジャーナルである「Diabetes Care」に掲載されることとなりました。
<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/g63349/2025kaiken4>



▶2025.12/3

筑波大学・千葉大学・群馬大学、医学研究力向上に関する連携協定を締結
本協定は、日本医療研究開発機構(AMED)の「医学系研究支援プログラム【特色型】」に採択された、三大学が共同で推進する「関東三大学医学研究次世代育成プロジェクト(Tone River Alliance for Scientific Excellence and Educational Development; ToRA-SEED)」の枠組みを基盤とし、これを制度的かつ継続的に発展させることを目的としています。
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/214903>



荒牧祭(学園祭)とホームカミングデーを同日開催

2025年11月9日(日)荒牧キャンパスにて、荒牧祭2025とホームカミングデーを同日開催しました。

荒牧祭では、学生によるイベント、模擬店の出店があり、キャンパスは多くの来場者で賑わうとともに、卒業生や地域の皆様との大切な交流の機会となりました。

ホームカミングデーでは、医学部卒業生であり、現在は本学の医学部附属病院で病院長を務める齋藤繁教授による「大学病院から発信する健康増進法～群馬県の山を歩いて健康長寿を満喫する～」と題した特別講演会を開催しました。参加者は、配られた風船を使って気圧の低い山での呼吸法を体験するなど、楽しみながら学びを深めていました。



多くの来場者で賑わった荒牧祭



特別講演を行う齋藤教授



CRANTSでのシミュレーター見学
(キャンパスツアー)

また、学生広報大使企画としてキャンパスツアーも行われ、学生広報大使のガイドにより、馬術部や次世代モビリティ社会実装研究センター(CRANTS)、遊歩道などを回りました。当日はあいにくの雨模様でしたが、同窓生や高校生など多くの参加がありました。

本学卒業生の小林章さんと御賛同いただいた
農業生産者の方々より学生へ！

新鮮野菜の御寄附



食料品など物価高騰の影響を受けている学生を支援しようと、群馬大学教育学部体育専攻の卒業生である小林章さん(1980年度卒)に、野菜の無料配布会を継続して開催いただいております。

「群馬大学の学生のために少しでも役に立ちたい」という小林さんの御厚意のもと、小林さんの呼びかけにより御賛同いただいた農業生産者の方々からの御提供も加え、2021年から桐生キャンパス・荒牧キャンパスで採れたたのレタスやナスを無料で配布していただいております。配布会は毎回大好評で、新鮮な野菜を受け取った在学生からはたくさんの笑顔と感謝の言葉があふれています。小林さん、そして御協力いただいている生産者の皆様の長きにわたる温かい御支援に、心より感謝申し上げます。



あなたの寄附が群馬大学の未来を創る
 群馬大学基金に寄附をいただいた主な企業・団体様
 (敬称略)

相模屋食料株式会社



一般財団法人同愛会



群大生の皆さんの
 修学生生活を支援します。

カンサン株式会社



夢に向かう一歩をカンサンは応援します

上武印刷株式会社



群馬大学生として
 誇りを持って、
 ご活躍ください。

株式会社ヤマト



「建設プロダクトのヤマト」は、建設製品をワンストップでお客様に提供します。最近では「道の駅まえばし赤城」の建設・運営にも携わり、建設業にとまらない新たな事業展開に踏み出しました。群馬の未来を担う学生の皆さん、ぜひヤマトの取り組みを体感してください。

関東防災工業株式会社



群大生の豊かな学びと輝く未来を応援します

株式会社森エンジニアリング



Let's try new challenges!!

藤田エンジニアリング株式会社



株式会社シィオ



システムセイコー株式会社

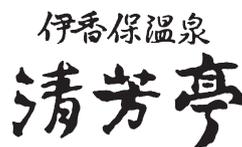
革新的なテクノロジーで未来を切り拓く



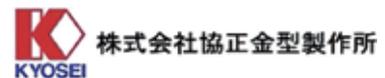
システムセイコー(株)

一流の技術を発揮し、社会に貢献しよう!

株式会社清芳亭



株式会社協正金型製作所



皆さんの未来を応援しています。

山九株式会社



群大卒業生一同からも皆様の充実した
 学生生活を応援しております!

株式会社原田・ガトーフェスタ ハラダ



群馬大学学生の
 皆様の更なるご
 活躍を応援して
 おります。

星野総合商事株式会社



学び続ける力は、社会を動かす力になります。
 群馬大学での経験を糧に、自由に、しなやかに
 未来を切り拓いてください。

- 一般社団法人群馬大学工業会
- 群馬大学工業会さいたま支部
- 群馬大学工業会東京連合支部
- 株式会社日本キャンパック

※2025年1月～2025年12月にご寄附を
 いただいた企業・団体様を掲載しており
 ます。

引き続き群馬大学基金への皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

群馬大学基金Webサイト

ご寄付はWebからお申込みいただけます
 クレジットカード・コンビニ・銀行振込 対応

群馬大学基金

検索

<https://kikin.gunma-u.ac.jp>



Photogallery

フォトギャラリー

【表紙の写真】

【目次の写真】



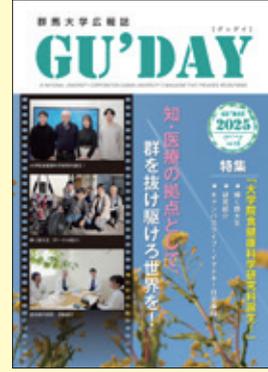
学生広報大使兼
桐生写真部 撮影 大澤 郁弥さん

桐生写真部 アカウント X :@gust_photo
Instagram:@gupt_kiryu.gallery

Back number

バックナンバー

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/guday>



読者の皆様へ アンケート御協力をお願い

群馬大学広報誌「GU'DAY」を御覧いただきありがとうございました。
よりよい広報誌作成のため、簡単なアンケートに御協力ください。アンケートは3分ほどで終わります。

群馬大学オリジナルグッズプレゼント！

アンケートに御協力いただき、プレゼントに応募された方の中から抽選で
合計10名様に「群馬大学オリジナルグッズ」をプレゼント！是非御応募ください！

プレゼント応募締切：2026年5月31日

回答方法：QRコードを読み取って回答してください。

応募方法：アンケートの最後に必要事項を記入してください。



星野富弘氏クリアファイル (A4)
「桃」「くちなし」「あさがお」
※デザインは選べません。



桐生織 × 星野富弘氏コースター

群馬大学卒業生の詩画家星野富弘さんの作品「さざんか」を、
群馬県桐生地域の特産品である桐生織で織り上げました。



群馬大学広報誌

GU'DAY

【グッデイ】

発行元：国立大学法人群馬大学総務部総務課広報係

発行日：2026年3月

TEL：027-220-7010 (7011)

Email：s-public@ml.gunma-u.ac.jp

URL：https://www.gunma-u.ac.jp/

群馬大学公式 HP・SNS 最新情報発信中！



HP



facebook



LINE



Instagram



X



YouTube